

## 平成23年度 第4回英語学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

日 時：平成23年12月17日（土）17：00～19：00

場 所：私立大学情報教育協会 会議室

出席者：山本涼一委員長、田中宏明副委員長、五十嵐義行委員、北出亮委員、  
小林悦雄委員、西野春雄委員、山本英一委員  
（事務局）井端事務局長、森下主幹、松本職員

### 検討事項

今回の検討事項は学士力の実現に求められる教育改善モデルの「授業評価の方法」と「教員の教育力」の2点であるが、「授業評価の方法」について、モデル1と2の文案作りを行った。

文案作りはまず、前回の宿題であったマトリックスによる授業評価のチェック項目の確認が行われた。委員長が委員の意見を集約してまとめたマトリックスチェック項目としては、学生、教員・同僚、外部などによる多層な評価が重要である。また誰がどのように評価するかがポイントであり、具体的な評価項目として、英語運用能力の目標達成、専門領域と英語運用能力の関連性、専門や英語教員からのフィードバックの確認などが必要である旨発言があった。

続いて、マトリックスのモデル案の説明が行われ、まず、委員作成の授業の評価方法（モデル2）についてのチェック項目の説明がなされた。マトリックスの縦の評価項目は、英語運用力の目標達成、専門領域と英語運用能力の関連性、専門領域や英語教師からのフィードバック、英語と専門教員の連携などで、横軸の評価者は英語教員、専門教員、学生、外部の専門家の4者である。

この後、看護分野の授業評価をたたき台にして、マトリックスのチェックリストと重ね合わせながら文案作成が進められ、下記の授業評価モデル2が作られた。

### 授業評価 モデル2

本授業は、診断テスト、到達度テスト、成果発表、アンケートや学習ポートフォリオなどを用いて、英語の教員、教科専門の教員が授業の進行・内容・成果及び協働のあり方と役割分担を、評価シートに基づいて点検する。さらに、学内外を通じた教員同士のコンソーシアムのアドバイスを受ける。

さらにモデル1の授業評価については、委員からマトリックスの項目の説明がなされ、多くの評価項目の中から、特にコミュニケーション能力の評価点検が取り上げられた。横軸の評価者はモデル2と同じで、下記の授業評価モデル1が作成された。

### 授業評価 モデル1

本授業は、診断テスト、到達度テスト、成果発表、アンケートや学習ポートフォリオ、外部の実務者等による評価などを用いて、英語の教員・関連分野の教員が授業の進行・内容・成果及びコミュニケーション能力を評価シートに基づいて点検する。さらに、授業の質保証を担保するため学内外を通じたコンソーシアムのアドバイスを受ける。

### 次回の検討予定

1月24日火曜日午後4時から6時まで第5回委員会を私情協会議室で開催する。

今回は「教員の教育力」を検討するが、委員長がまとめた「大学教員の英語教育分野における教育力の方策（枠組み）」を検討し、意見を事前に提出して欲しい。